

# 激動の経営

## ニッチな商売

化学原料の老舗専門商社であるテツタニ（大阪市中央区）は約95年にわたり、色材のスペシャリストとして事業を展開してきた。独BYK-Chemie

## テツタニ

①

mie（ビッケケミ）やエポニックなど、名だたるメーカーの顔料や添加剤、樹脂を供給し、産業の発展を支えてきた。化学品のみならず、光沢や色彩などを測定する機器も展開している。4代目で現社長の鉄谷昌宏は「ニッチな世界にニッチなモノを売っていくのが当社の基本スタンス」と話す。

テツタニ創業者の鉄谷長治郎はくすりの町として知られる大阪・道修町で工業薬品問屋に勤めていた。描画

## 色材のスペシャリスト



テツタニ創業者の鉄谷長治郎氏

材料の顔料や漆の商売をのれん分けしてもらい、1926年に独立して創業した。テツタニの祖業である顔料は、今も同社を支える柱となっている。

### 輸入を実現

3代目社長で現会長

の鉄谷明が「テツタニの鉄谷明が「テツタニの鉄谷明が」

通貨と交換可能なハード・カレンシー（国際

## 海外製品取り扱い開始

通貨）が少なく、海外からの輸入が難しい状況だったが、これを実現した。日本の経済発展に必要なカーボンブラックを販売できただけでなく「テツタニという小さな会社が世界に目を向けるきっかけになった」（明）ことが大きな意義だ。これまで同社は国内メーカーの顔料のみを取り扱っていたが、視野が広がり、独ラックセスや仏ベネターなど、取り扱う製品数の拡大につながった。

なかっ。同社が展開する顔料は無機系だったが、競合は無機系の10倍ほどの価格で取引される有機系をこぞって展開していた。明は「当社は無機系顔料に執着しており、もうけられないビジネスモデルだった」と語る。

### 全国区に

が、ビッケケミーの添加剤は付加価値や市場競争力が高いこともあり、東日本にもテツタニのことが知られるようになったのだ。テツタニを全国区にしたビッケケミーのビジネスだが、次の問題も発生した。明は「当社にとって忘れることのできない大きな大きな節目」と強調する。（敬称略）

▽所在地 大阪市中央区徳井町2の2の2  
代表者 鉄谷昌宏氏  
設立 1941年（昭和16）  
10月 資本金 5000万円  
従業員 55人  
売上高 約108億円（21年12月期）